

研究課題名

特定健康診査時における便潜血検査キット配布による大腸がん検診受診率向上効果

本研究は、ちば県民保健予防財団倫理審査委員会の承認を得て、2019年から2021年3月31日の間に行う研究です。

我が国における大腸がんの罹患者数は171,098人（2014年）、死亡数は50,681人（2017年）と推定されており、がん罹患数順位では1番目、死亡数順位は2番目に多いがんです。がん検診ガイドラインによると、大腸がん検診の便潜血検査は、死亡率減少効果を示す十分な証拠があることから、対策型健診として実施することが強く推奨されています。しかし、我が国の40歳以上の大腸がん検診の受診率は39.1%（2016年）にとどまっているのが現状です。

ちば県民保健予防財団は、「九十九里町における「検診を活用した健康づくりモデル事業」の中で、特定健康診査時に便潜血検査キット配布する方法を試みています。本研究は、自治体で管理されている既存データを活用し、特定健診時に便潜血検査キットを配布することによる受診率向上効果を明らかにすることを目的とします。

本研究における個人情報等の扱いは以下の通りです。

- 本研究は、自治体で管理されている既存データを用いた後ろ向き観察研究であり、本研究のために新たに人体試料の採取は行いません。
- データ提供にあたっては、九十九里町でデータを匿名化し、個人情報と研究用のIDとの対応表は保管しません。
- 研究の成果は学会等で公表する予定ですが、個人が特定できる情報を公表することはありません。
- 本研究の主任研究者及び分担研究者は、本研究に関する利益相反はありません。

本研究で活用するデータは、個人情報は除外し、さらに対応表を保管しない状態で自治体から提供されます。個人のデータは特定できない状態で提供されるので、ご自身のデータを利用されたくない場合であっても、ご意向に沿えませんことを了承ください。

研究責任者

公益財団法人ちば県民保健予防財団調査研究部

主席研究員 藤田 美鈴